

「大東京防犯ネットワーク」防犯情報マップ 東京都 青少年・治安対策本部

GISプラットフォームを活用した防犯情報の可視化



ArcGISプラットフォームの特長

- Webマップとアプリケーションテンプレートを組み合わせ、用途や利用者にあわせた多様なマップの公開を実現
- 各機関から集約された防犯情報を一元化し、分かりやすい形式で可視化・発信
- 自庁内更新を実現することでランニングコストを低減



前列左から
 青少年・治安対策本部
 安全・安心まちづくり課
 課長 金子 しのぶ 氏
 担当課長 深谷 修 氏
 みまもりいぬ
 課長代理 岡野 雅史 氏
 主 事 向井 敬 氏
 主 事 山本 健人 氏



PROFILE

組織名：東京都 青少年・治安対策本部
 住所：東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
 東京都庁第一本庁舎北側34階
 問合せ先：安全・安心まちづくり課
 電話番号：03-5321-1111
 URL：<http://www.seisyounen-chian.metro.tokyo.jp/>

使用製品

ArcGIS Online
 ArcGIS for Desktop

課題

- ・効果的な防犯情報の発信

導入効果

- ・防犯情報をわかりやすく可視化
- ・防犯情報への関心の増大
- ・地域におけるあらゆる主体の防犯の取り組みを促進

■概要

東京都青少年・治安対策本部では、区市町村の取り組みや防犯ボランティア団体等の活動支援として、防犯ポータルサイト「大東京防犯ネットワーク」を運営している。平成28年10月に、地域の一層の治安向上を図り、警察や行政だけでなく都民や防犯団体、民間事業者等の取り組みを一層促進するため、本サイトにGISを導入して地図によりわかりやすく防犯情報を発信するサービスを開始した。本サイトは、ArcGIS Onlineが活用されており、データのテーマや想定される利用者に応じて、6つのWebアプリケーションが掲載されている（平成28年10月時点）。大東京防犯ネットワーク：

<http://www.bouhan.metro.tokyo.jp/>



防犯情報マップ トップページ



←マップのQRコード

■背景

東京都青少年・治安対策本部では、平成17年度から「大東京防犯ネットワーク」を運営し、都内で活動する防犯団体の紹介や、都での防犯に関する取り組みを発信してきた。大東京防犯ネットワークには、月平均でおよそ15,000人がアクセスしており、防犯活動のポータルサイトとして、大きな役割を担っている。

平成27年度に、地域の防犯活動の一層の活性化を図るため、安全安心に関する情報の発信・共有のあり方について、警視庁、行政、有識者による検討会を行った。この検討会では、都内で既に発信されている防犯情報を踏まえ、今後出すべき情報等を十分議論したほか、いかに都民にわかりやすく伝えるか等を検討し、地理情報を活用した情報公開を進めることとなった。

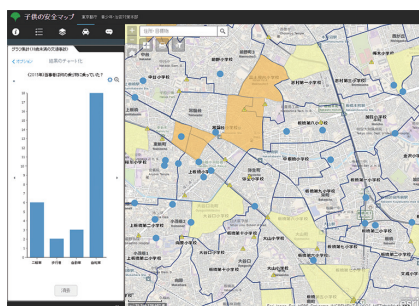
■ArcGIS採用の理由

都民が地域の防犯情報を正しく理解するためには、わかりやすい情報が必要である。それには、地図表現によって、直感的でわかりやすいメッセージを伝えることが有効であった。ArcGIS Onlineは高い地図表現能力と、豊富なアプリケーションテンプレートを持っている。また、開発行為を行わずにマップ整備ができるので、都職員の手で修正・更新を行えることも採用の理由となった。

■システム構成

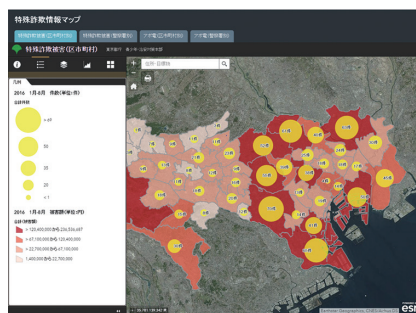
関係機関より提供された防犯データは、東京都庁内に設置されたArcGIS for Desktopに集約され、公開用のGISデータとして整備される。

GISデータはArcGIS for DesktopからArcGIS Onlineにレイヤー単位でアップロードされており、それぞれのレイヤーを組み合わせ、「子供の安全マップ」や「特殊詐欺情報マップ」、「町丁字別犯罪情報マップ」などの6つのマップとして発信されている。

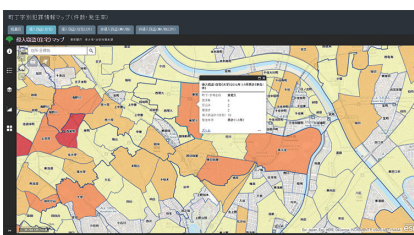


子供の安全マップ
グラフ集計によりデータの傾向を分析

また、防犯情報マップのポータルページには、マップの紹介として、6つのマップの概要が掲載されているほか、操作マニュアルも添付されている。掲載されているデータの一部は、オープンデータとしても公開されており、安全安心に関心を持つ都民が自由にデータを扱うことができる。



特殊詐欺情報マップ
特殊詐欺（オレオレ詐欺などの総称）の区市町村別・警察署別の発生件数や被害総額をシンボル表現を組み合わせ可視化



町丁字別犯罪情報マップ
地域の詳細な情報が把握可能



パトロールマップの作成ツールも提供

■導入効果

地域のより詳細な情報(町丁字単位)を、テーマに合わせてまとめて一つのマップで発信することで、地域の防犯情報への関心が高まり、様々な防犯活動に活用できる。防犯情報マップは公開以降各種メディアにて取り上げられ、公開から1ヶ月で約8万件のアクセスがあった。

また、導入にあわせて、全国初の防犯アイデアソン『東京の治安を考える』アイデア・ワークショップを開催した。オープンデータや防犯情報マップをもとに、参加者から様々な防犯のアイデアが出され、防犯への関心が一層高まった。



防犯アイデアソン当日の様子

■今後の展望

サイトの有効活用を促すため、区市町村の防犯施策や学校等の子供見守り、防犯団体のパトロール活動への情報の有効活用を図ることが課題である。また、防犯団体や民間事業者等の活用を図るよう、サイトを周知するとともに、利用者の声等を踏まえてサイトの充実も図っていく予定だ。



安全安心まちづくりを推進する
マスコットキャラクター「みまもりいぬ」

